

地震

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

●最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保……手近な座布団などで頭を保護
- すばやく火の確認……ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

●揺れがおさまったら

- 火元を確認……火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認……倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく……家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等へ注意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難

●みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 要配慮者の安全確保……隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 初期消火……消火器を使う、バケツリレー、風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意
- 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

●テレビやラジオなどで正しい情報を得る

- 大声でだけが人の確認
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する

●協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

通電火災を防止するために、避難する前にブレーカーを落としてね。



津波

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目処に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

津波警報・注意報の種類

※ 大津波警報は特別警報に位置付けられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定されるべき行動と取るべき行動
		数値での発表	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10mを超える高さの津波が予想された場合)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10m (5m~10mの高さの津波が予想された場合)		
		5m (3m~5mの高さの津波が予想された場合)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m~3mの高さの津波が予想された場合)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m~1mの高さの津波が予想された場合)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

「津波災害警戒区域」の指定

平成23年3月の東日本大震災では、想定をはるかに超える大津波により、広範なエリアで甚大な被害が発生しました。これを受け、『津波防災地域づくりに関する法律』が平成23年12月に成立し、津波被害を防止または軽減する効果の高い地域整備の方針が定められました。平成26年3月に、南海トラフ地震等により発生する最大津波を想定した「津波浸水想定図」が県から公表され、これを基に国東市は令和5年11月に「津波災害警戒区域」に指定されました。

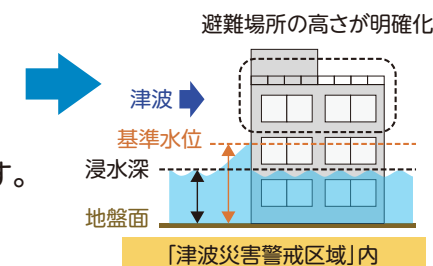
津波災害警戒区域に指定されると

- 大分県が指定した「津波浸水想定」における従来の浸水深に加え「基準水位(※)」が公表され、より実効性の高い避難対策が可能となります。
- 国東市地域防災計画に位置づけられた社会福祉施設や学校、医療施設などは、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務づけられます。
- 津波災害警戒区域内の不動産の取引時には、宅地建物取引業法に規定している(施行規則16条の4の3)重要事項説明の義務が生じます。

(※)基準水位とは……?

想定した最大クラスの津波が建物に衝突した際のせり上がり(水位上昇)を考慮した水位であり、地盤面からの高さで表示します。

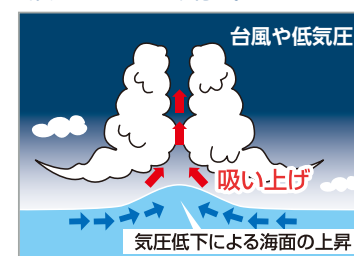
建築や開発行為の規制はありません。



高潮が発生する仕組み

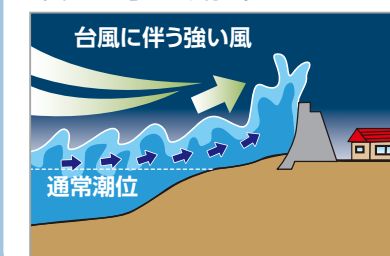
高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流れが阻害されます。そのため、川沿いでは氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。

吸い上げ効果



台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。気圧が1hPa低下すると海面は1cm上昇します。例えば、950hPaの台風が接近すると、1000hPaだった時より50cm海面が上昇します。

吹き寄せ効果



台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。吹き寄せ効果は風速や海岸の状況により大きく異なり、V字型の湾の奥ほど高くなります。

高潮をもたらす台風の大きさと強さ

台風の「大きさ」は、強風域(風速15m/秒以上の強い風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲)の半径で表し、台風の「強さ」は、最大風速で区分しています。台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

【大きさの階級分け】

階級	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上~800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

【強さの階級分け】

階級	最大風速
強い	33m/秒以上~44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上

- 高い場所へ速やかに避難する
- なるべく徒歩で避難する
- 正しい情報入手する
- 河川や海岸には近づかない
- 避難指示に従う